

## 近現代の政治家・軍人等の貴重な日記 500 点以上を収録

電子展示会「国立国会図書館 憲政資料室 **日記の世界**」を公開します  
インターネットでどなたでもご覧いただけます

国立国会図書館は、3月19日に、憲政資料室の所蔵する日記資料等をインターネットで紹介する電子展示会「国立国会図書館憲政資料室 日記の世界」を公開します。この電子展示会では、芦田均、幣原喜重郎、浜口雄幸、大山巖などが書いた500点以上の日記資料をご覧いただけます。

これらの日記資料は、これまでも近現代政治史等の分野において、貴重な歴史史料として研究者を中心に利用されてきました。今回の公開では、インターネット上の展示会として、より多くの人に日記資料に親しんでもらえるよう、様々な工夫を行っています。



**3月19日 公開予定**

■問合せ先：国立国会図書館 総務部総務課広報係 TEL：03-3506-5103（直通）



# 日記の世界

あなたは、日記をつけたことがありますか？

国立国会図書館は、2021年3月に憲政資料室の所蔵する日記資料等をインターネットで紹介する電子展示会「日記の世界」を公開します。この電子展示会では、近現代の500点以上の日記資料をご覧いただけます。

これらの日記資料は、これまでも近現代政治史等の分野において、貴重な歴史史料として、研究者を中心に利用されてきました。今回の公開では、より多くの人に日記資料に親しんでもらえるよう、様々な工夫を行っています。

ここでは、この電子展示会の機能やコンテンツの一端をご紹介します。どうぞ実際にアクセスしてご覧ください。

スマートフォンからも  
ご覧いただけます。



インターネットでどなたでもご覧いただけます。

<https://www.ndl.go.jp/nikki/>





コンテンツ・機能紹介

年表から日記を見る

今回取り上げた様々な人物が日記に実際に記述した一節を引用し、1850～1970年代まで、年代ごとに並べて紹介しています。クリックすることで、実際の日記画像と簡単な解説もご覧いただけます。これらの一節を入口として、日記資料の他のページを国立国会図書館デジタルコレクションで読むこともできます。

例：1860年代以前の日記より



嘉永7年1月25日 (1854年2月22日)

黒船に乗ってきた人を見る

詳しく

為人皆、長身、而白肌緑眼、而高鼻短髪。【人となり皆、長身、白肌緑眼、高鼻短髪。】

安政5年7月初旬 (1858年8月初旬)

コレラの流行

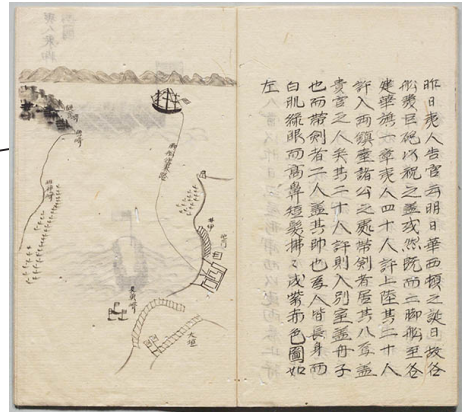
疫病

詳しく

当地にコレラと唱ふる伝染病流行、日々死するもの数百人なり。この疾を受るや吐しゃ烈しく数時間にして死するあり。未だ是を治するの薬方なしといへども、是を余〔予〕防するの法あり。蘭人〔オランダ人〕教師ボンベ氏は是を着して差出せり。この疾は始めて伝来せるにて古医も知るものなかりし。亞墨利加〔アメリカ〕船バートンにて支那より伝来せりと云ふ。或は魯西亜〔ロシア〕船アスコルトより伝来せり杯との風評なり。市中の騒動大方ならず、悪魔を払ふと号し、鐘大鼓にて騒ぎ回り恰も祭礼の如し。



赤松則良



解説

黒船が再来航した際に、実際に乗組員を見た際の手記です。他のページでは船や、星条旗の絵も載っています。



万延元年5月5日 (1860年6月23日)

桜田門外の変風聞

事件

詳しく

噴火山を東北に見、十時浦賀港に下碇す。聞くに、過る三月三日大老職井伊公登城の途、外桜田において浪士のため殺害せられ、午後浪士等攘夷を主張し、外国人を襲わんとするの催あるとし、騒然たりと。

文久2年7月4日 (1862年7月30日)

船内ではしかが流行

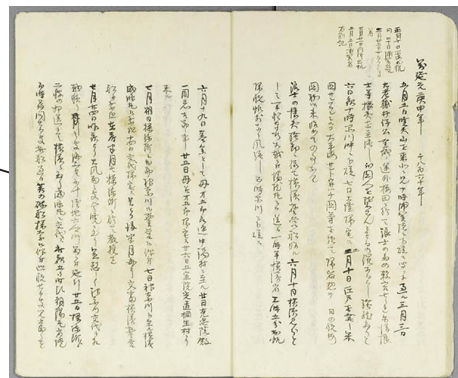
海外 疫病

詳しく

雨。御船乗組の者、多分病疹病に付、当分同所に碇泊相成る。



沢太郎左衛門



解説

咸臨丸による航海でアメリカから浦賀に帰港した赤松は、航海中に大老井伊直弼が江戸城への登城中に水戸浪士等に暗殺された、いわゆる桜田門外の変についての聞き書きを記しています。



文久2年8月2日 (1862年8月26日)

穏やかな海へ出航

海外

詳しく

快晴。風少く海面油を流せし如く、夕七時御船当港出船、志州浦え向。夜中遠州灘え進む。この灘は兎角【とにかく】波立荒き所なれ共、風これ無きに付致て穏静。

文久2年11月19日 (1863年1月8日)

長州藩士の外国人襲撃計画

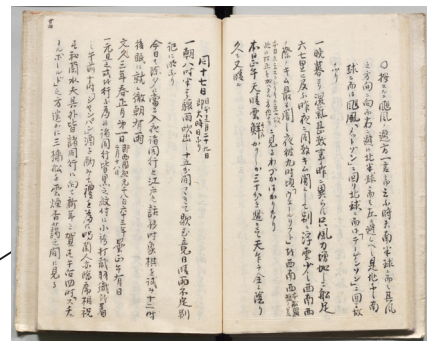
事件

詳しく

前夜萩藩の士十三輩、横浜の異人を討たんとし、生麦村まで出張せしに、この秘密の暴挙を薩藩の士聞得て、土州の老侯に密告せしが、老侯この事を勅使に告られしに早々留むべきとこのことを廟堂に達し、長州家に達命せられし故、長州の世子直に同所へ騎切、出張せられ、また土州の藩士も出張し理解して引留たりと。



藤海舟



解説

オランダ留学に向かう船上にあった榎本は、正月を祝いました。この日は、西暦では1863年2月18日にあたり日記にも記されています。



文久3年1月1日 (1863年2月18日)

元旦にシャンパンで乾杯

海外 正月

詳しく

午前十時「シャンパン」酒を酌みて礼を為す。鳴蘭人〔オランダ人〕また臨席相祝す。和蘭水夫その外皆諸同行に向て新年を賀す。

文久3年1月1日 (1863年2月18日)

船上の元旦

海外 正月

詳しく

一同早朝起出、皆黒の紋付に小袴着用。元旦の式を行ふ。午前十時頃



沢太郎左衛門

例：芦田均のページ

**芦田均の日記について**  
この電子展示会で見られる日記の概要

- ◆ 1946年、1947年の2冊の手帳。
- ◆ 総理大臣になる前の高橋内閣厚生大臣時代、片山内閣副総理兼外務大臣時代のもの。

芦田均  
あしだひとし

芦田均の日記より

昭和21 (1946) 年4月11日

**当選確実** 選挙 詳しく

午後から開票の結果がラヂオで放送され、新聞の張出しに人が集まって来た。党本部に行ったが余り代議士は集まっていない。夕方にラヂオで私の当選は確実だと放送した。夕食後鳩山一郎氏往訪。

昭和21 (1946) 年4月13日

**総選挙の結果をうけて** 選挙 詳しく

選挙の結果自由党141、進歩党92、社会党91、無所属78と判明した。朝吉田外相を往訪した。俺は幣原に拘ると語り、新内閣にはよき外相と蔵相とを捜すことだと云った。

昭和22 (1947) 年5月1日

**パーシ容疑** 詳しく

鉄工ビル郡是「グンゼ」-憲法普及会、党本部へは次第に代議士が集まり始めた。同時に私のパーシ問題が乱れと云ふ。竹田君入党のことに打合せ。夕方五時に党本部を出て帰宅した。今日も又パーシの事件についての文書を作って郡是で複写させた。しかしパーシにかゝっても差支ないといふ気持ちになって来た。

人物から日記を見る

幕末・明治期に活躍した伊藤博文、岩倉具視、榎本武揚といった人物から、軍人である大山巖、児玉源太郎、戦後の総理大臣芦田均、大平正芳まで、40人以上の人物について、実際の日記本文から一節を紹介するとともに、その人物の日記一覧をご覧ください。一部の人物については、刊行された日記の情報も付しています。

日記の著者一覧




日記資料は研究者にどのように活用されているのでしょうか。今回「日記の世界」の監修を担当した季武嘉也創価大学教授・国立国会図書館客員調査員をはじめ、6人の専門家から、日記を史料として用いた読み物を寄稿いただきました。政治家等の日記から広がる世界をお楽しみください。

歴史史料としての日記／日記で読む政治史

「日記の世界」

はじめに：季武嘉也 研究の視点 年表の活用 人物の活用 史料の活用 索引と目録 掲載日記一覧

歴史史料としての日記

季武嘉也 (創価大学教授・国立国会図書館客員調査員)

1. 歴史史料としての日記

多くの人が、小説や伝記の原典として日記を捉えている。それは、日記が私生活の記録であるという点に注目しているからである。しかし、日記は単に私生活の記録だけではなく、政治や社会の動向を反映しているという側面もある。本稿では、日記を歴史史料として活用する方法について、いくつかの事例を通じて紹介する。

まず、日記が歴史史料として活用されるためには、その信頼性を確認する必要がある。日記は、日記の著者が自分の生活や感情を自由に記述しているため、客観性を欠いている可能性がある。したがって、日記の内容を他の史料と照合し、その信頼性を確認することが重要である。

また、日記は、著者の私生活だけでなく、政治や社会の動向を反映しているという側面もある。例えば、政治家の日記には、政治的な議論や、社会問題に関する見解が記述されていることが多くある。このような日記は、歴史研究において貴重な史料として活用される。

最後に、日記を歴史史料として活用する際には、日記の著者の背景や、日記の作成時期などを考慮することが重要である。日記の内容は、著者の価値観や、その時代の社会状況によって大きく異なる可能性がある。したがって、日記の内容を正確に理解するためには、著者の背景や、その時代の社会状況を十分に理解することが必要である。





## コラム

日記にまつわる8つのコラムを掲載しています。

- ・ 咸臨丸、発展途上の船出 — 赤松とブルックの日記から
- ・ 古代をのぞく海外旅日記 — 杉浦讓の「文久奉使日記」から
- ・ 榎本武揚のシベリアにおける写真収集
- ・ もう1人の女子留学生、内田政
- ・ 日記に記した異国情報 — 幕末・明治初期の渡航者
- ・ ロンドン海軍軍縮条約の締結とラジオ — 二人の日記と「雑音」
- ・ 東芝の再建 — 石坂泰三の決意
- ・ 日記の附属資料は宝の山？ — ここから何が見えるか



## 掲載日記一覧

今回電子展示会で取り上げている500点以上の日記資料を、人物別や年代順にご覧いただけます（一部館内限定公開の資料があります）。

今後も、憲政資料室で所蔵している日記資料は、デジタル化し、電子展示会や国立国会図書館デジタルコレクションに追加していく予定です。

<b>1905年</b> 家徳日記 No.5 明治38年1月1日～明治42年12月31日 【国立国会図書館蔵】471	<b>1910年</b> 家徳日記 No.6 明治43年1月1日～明治45年12月31日 【国立国会図書館蔵】472	<b>1910年</b> 家徳日記 No.7 明治43年1月1日～明治45年12月31日 【国立国会図書館蔵】23-13
<b>1910年</b> 家徳日記 No.8 明治43年1月1日～明治45年12月31日 【国立国会図書館蔵】23-22	<b>1912年</b> 家徳日記 No.9 大正元年10月1日～大正元年1月31日 【国立国会図書館蔵】241	<b>1913年</b> 家徳日記 No.7 大正2年2月11日～大正2年8月25日 【国立国会図書館蔵】491
<b>1913年</b> 家徳日記 No.8 大正2年6月26日～大正2年9月30日 【国立国会図書館蔵】490	<b>1913年</b> 家徳日記 No.9 大正2年10月1日～大正2年1月31日 【国立国会図書館蔵】491	<b>1913年</b> 家徳日記 No.7 大正2年6月26日～大正2年9月30日 【国立国会図書館蔵】251
<b>1914年</b> 日記 内大臣時代 大正3年1月1日～大正3年7月5日 【国立国会図書館蔵】22-32	<b>1914年</b> 東京市員日記 第4巻 大正3年9月1日～9月30日 【国立国会図書館蔵】742	<b>1914年</b> 東京市員日記 第5巻 大正3年10月1日～大正4年1月31日 【国立国会図書館蔵】741
<b>1914年</b> 私生活日記 大正3年10月1日～大正3年12月31日 【国立国会図書館蔵】192	<b>1914年</b> 東京市員日記 第6巻 大正3年12月1日～大正4年1月31日 【国立国会図書館蔵】192	<b>1914年</b> 大正三年 九月 十二日 白紙 大正三年9月1日～15日 【国立国会図書館蔵】451
<b>1914年</b> 家徳日記 No.10 大正3年10月1日～大正3年12月31日 【国立国会図書館蔵】492	<b>1914年</b> 家徳日記 No.11 大正3年12月1日～大正3年12月31日 【国立国会図書館蔵】493	<b>1914年</b> 家徳日記 No.12 大正3年12月1日～大正3年12月31日 【国立国会図書館蔵】494
<b>1915年</b> 家徳日記 No.13 大正4年1月1日～4月4日 【国立国会図書館蔵】495	<b>1915年</b> 家徳日記 No.14 大正4年4月5日～4月31日 【国立国会図書館蔵】496	<b>1915年</b> 東京市員日記 第6巻 大正4年2月1日～4月10日 【国立国会図書館蔵】742

## キーワード一覧

日記から引用した一節を、選挙、国会、外交など、特定の内容でまとめてご覧になれます。

例：キーワード「第二次世界大戦」



昭和19 (1944) 年6月26日

**戦況悪化** **第二次世界大戦** **正しく**  
サインは迷に玉砕 [びよくさい] した。テニアン、大島島 [グアム] は尚反抗をつけてある様であるが孤立無援の状態である。…何処へ行っても良い話はない。



昭和19 (1944) 年12月26日

**空襲下の開院式** **第二次世界大戦** **新聞記者** **正しく**  
開院式—歴史初めて以来の空襲下の開院式。しかも御報館あらせらるゝことを拝し、恐懼 [きよくく] に堪えず。



昭和20 (1945) 年1月1日

**新年のわびしい思い** **第二次世界大戦** **正月** **正しく**  
年齢今や三十八。近き次代を背負い政治を担ふと予想せられる青年たち (特攻隊等に送られた出征学徒軍人) と最早余りにもかけ離れた年命に達したことがびくびく考へられるこの元旦。



昭和20 (1945) 年2月27日

**戦局悪化で意見いろいろ** **第二次世界大戦** **正しく**  
児玉伯より電話。阿部、陸軍では岡田が大任になりたがってあせついていると云ふ。重臣が陛下に拝謁の際平和のことを申し上げたる處、「糧て戦捷 [戦勝] 後だ」と仰せられし由。大島君、今のまゝではだめ、一般民を中部山脈地方へ追ひやり、手足まどいをなくして、本土作戦をすることを宣伝するつもりである。先づ明日研究会の常務委員会で話す。貴族院は衆議院や政府を輔翼 [べんたつ] して、立て直しをやって貰はねばだめだ。それが貴族院の責務だ。



昭和20 (1945) 年3月10日

**東京大空襲の惨状** **第二次世界大戦** **正しく**  
十二時過再び警報出で、忽 [たちま] ち爆音高射砲音近に聞え空襲警報出



国立国会図書館では、「日記の世界」以外にも多くの電子展示会を公開しています。各コンテンツでは、国立国会図書館所蔵の様々な資料について、わかりやすい解説を加え紹介しています。

[https://www.ndl.go.jp/jp/d\\_exhibitions/](https://www.ndl.go.jp/jp/d_exhibitions/)